

先祖彼岸大供養会

9月21日(木)午前9時半より



大和国と紀州国の境目、真土峠「飛び越え石」の大賀蓮。
お大師さまも通られたでしょうか。

轉法輪

煩惱の因縁

数量あること無ければ

解脱の因縁もまた

数量あること無し

弘法大師

平成二十九年九月一日発行
発行所 犬飼山轉法輪寺
〒六三七一〇〇七二
奈良県五條市犬飼町一二四
電話〇七四七二二一四四〇三
FAX〇七四七一五一四七二七
編集発行人 桑山聖淳
印刷所 森本印刷工業所
和・伊都郡かつらぎ町妙寺

稲穂が美しく揺れる景色が広がります。

大自然は全て、仏の教えが収められた入れ物と大師は説かれました。

季節の巡りや大地の恵みに、感謝と喜びを持って日々を過ごしましょう。

秋のお彼岸法会

九月二十一日(木)

先祖彼岸供養法会 九時半より

法話 午前十時半より

四国番外札所十四番 椿堂

田中鐘暁 僧正

丹生狩場明神祭

十月十六日(月)十時より

御受戒会

十二月二十一日(火)九時半より

皆さまのご参拝お待ちしております。

犬飼山轉法輪寺

お大師さまのお言葉

生きることは苦しいもの。迷いの中で救いもないと感ずることがあります。しかし、苦しみを味わうゆえに、悟りの眼を開くことが出来ると大師は説いています。苦しみの数だけ、悟りへの道があるのです。

心配せんでええ
なるようになる

住職 桑山慈紹



ある日お寺の受付にAさん一家がお越しになりました。Aさん曰く、「家の先祖代々霊を永代供養したい。自分たちは子ども達に迷惑をかけたくないから、先祖さんのことは自分た

ちの代で済ませておきたい」とのことです。五十代位のお元氣そうな男性と、そのご一行でした。

「祀り事を引き継いでくれるような、子孫の方はおられないのですか？」と尋ねますと、息子夫婦に子があり、男の子もあるとのこと。話を聞きながら私は不思議に思いました。先祖祀りが子孫の迷惑になるという考えが、私にはよく理解できなかつたのです。

「先祖祀りは非常に大切な浄行です。また親孝行をする場所を残しておくことも大切です。自分が孝行をしている姿を子どもたちが見ていて初めて、同じように親を大切にしようになるのですから。」

自分の親を大切にしなかつた人の多くは、老後に淋しい思いをしているように思います。先祖祀りは孝行を繋ぐものです。子ども、孫のためにも、ご先祖さまを大切に供養する

ことを伝えていかななくてはなりませんよ。」と申し上げ、Aさん達は納得した様子で帰られました。

またある日、一人の女性が訪ねて来られました。その方は、「私には二人の娘がいます。長女次女ともに他家の長男に嫁ぎました。長女夫婦には子どもはおらず、次女夫婦には女の子二人です。先の事を考えると、今のうちに墓じまいをして、若い人のやつかいにならない様にした方が良いのかと考えていますが、どうでしょうか？」と言われるのです。

この方には、「奥さん、そんなにあわてなくても良いのですヨ。もっと若い人に頼れば良いのです。自分でも何かも後始末してこの世を去りたいと考えるのは思い違いです。私も亡くなった人のお見送りを沢山してきましたが、自分の棺桶をかついで死出の旅路に出た人を一人も見ただ

毎月21日は月並御影供(9時半～)・28日は不動尊護摩供(9時～)です。
どなたでもお気軽にご参拝くださいませ。入退出自由、昼食お接待です。

輪 法 轉 (3)

とはありません。みんな大勢の方のお力を借りて旅立つのですネ。生れる時も死ぬ時も、助けを借りなければならぬ。だからもつと素直に、『よろしく頼むね』と言ってお任せすればいいのです。そうすれば若い人も、それなりに自分たちの精一杯のことを考えるでしょう。』とお答えしました。

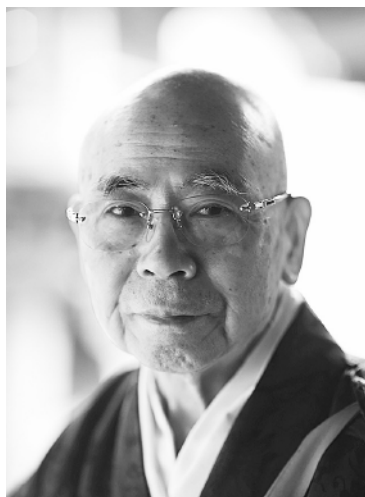
父母恩重經ぶちおんじゆうきやうの中に、父母の恩に報いる道が説かれています。自分には分からない、過去の沢山の働きによって生まれてきたこと。そして多くの人の中から、この父、この母を父母として生まれたこと。不思議なことですね。根底のところ、その父、その母が好きなのです。だから子どもは、父母を思うようになるのです。



生かせいのうち

【第五十五話】

名誉住職 桑山聖規



彼岸と此岸

暑さ寒さも彼岸までと言います。気候の変遷と、昼夜の長さが同じになること、大自然の法則は違いありません。暑さの苦しみからは解放されませんが、心の悩みを持つ人は彼岸

になっても変わりません。心の苦しみの無い「彼岸」に到るように佛が説かれた教えは、日本国中のお寺で法会を執行し、法話をもつて広められています。

心の苦しみは「貪欲」とんよく「瞋恚」しんに「愚痴」ぐちの三つの煩惱より来ます。私たちは欲望を捨てることは出来ませんが、むさぼるような強欲は自他を害します。佛は「足ることを知れ」と説かれています。二番目の瞋恚とは怒ることです。感謝の心が無いと、腹立ちやすく自他を害します。腹を立てると心臓がどきどきして肝臓の働きが悪くなります。三番目の愚痴は不足の心です。感謝の心無い人は、常に不足を思い、つまらぬ愚痴を言つて自他の心を暗く害します。この三つを三毒煩惱と言ひ、誰でも持っています。この三毒煩惱を信仰心により変えて日々感謝の生活が出来れば人生は楽しく、徹底すれば極楽になります。

水子の個人供養を受け付けています。毎日9時、11時、14時、16時からお勤めを致します。

この世は地水火風空の大自然の恵みにより総て生かされています。地水火風空は真言宗で「アピラウンケン」即ち大日如来と教えられています。この世は実に大日如来の力により生かされている佛の世界であり、極楽世界であります。不足たらたらの地獄を作っているのは自分の心の持ち方で、己の欲望の迷いによるものです。

彼岸会にあたり、迷いの此の岸より極楽の彼の岸に渡り、幸せな人生を悟ってください。金銭だけでは極楽にはなりません。自分も他人もみな幸せになるような助け合い拌み合って争いのない世界を造っていきましょう。

九月二十一日の彼岸会には、自分も生き仏に、先祖代々精霊も漏らさず苦しみの無い彼の岸へ到って下さるよう大法会を修します。多くの信者さまのご参詣をお待ち申し上げます。

合掌

心に宝をー24ー 真心の大切さ

平成二十九年 秋彼岸

橋本市

宝形山 地藏寺

井上 覚善

地球の歯車が狂い始めたのか、今までに無かつた様な異常気象により、大小の自然災害が多発しています。そんな中、こうしてご先祖さまや縁ある多くの方々をお迎えする一大イベントの「お盆」を無事に迎える事が出来たのは、とても有難いことであると同時に、深く感謝しないといけない事だと最近しみじみ感じます。そしてこの時期になりますと、「院家さん、仏さまのお供えはどんなものをしたら良いですか。」と尋ねられることが多くなり、このような質問を受ける度に思い出す出来事があります。

それは小学校低学年の頃のこと、実家のお寺ではたとえ子どもであつても

毎日しなくてはいけない決まり事がいくつもありました。本堂をはじめ各お堂で祀っているご本尊様方に「お仏飯」「お茶」をお供えし、境内にあるたくさんのお仏さまのお花の水換えをしなくてはいけないのです。その中でも特に重労働なのが、お供えしてある「浄水」を換えることでした。二〇リットルくらい入る金属製のバケツに水を一杯に入れ、柄杓を持ち、重いバケツを持ちながら一ヶ所ずつ前日供えた水を捨て、新しいバケツの水をお供えしていくのですが、これがしんどくてとても嫌でした。ですが、嫌でも何でも、こなさいと朝ご飯を食べさせてもらえないのです。

毎日嫌々ながらしていますと、横着な私は少しでも楽をして手を抜こうと考え、水を換える時に器を洗わず、しかも古い水も捨てずに、新しい水を少しだけ器に継ぎ足すようにしたのです。そうすると、何度もバケツの水を汲みに行く手間が省けて時間も短縮でき、楽が出来るようになりました。父は「もう終わったとか。えらい早かったね

家相・方位の相談をお受けいたします。新築・リフォーム・転宅の際はご相談ください。

。「と、言い、私は少し心が痛みましたが、早く終わるのであまり気にも留めず、日々横着を重ねていました。」

そんなことをしていますと、境内の仏さま方の器にだんだんと黄緑色の薄い苔が生えてきました。それでも私は同じことを繰り返してました。するとどんどん苔は酷くなり、さすがにこれはヤバいなと思っていました。案の定、父からカミナリが落ち、「こら！ 覚善、そぎゃんお供えするとは嫌々して、そぎゃん汚か器でお供えしてもろて仏さんの喜ばすと思うとか！ お前はそぎゃん汚か器で飲まるつとか！」と一喝されました。それでやっと目が覚め、今までの不徳な行為を深く恥じました。

この件があつてからは、何かをお供えする時には父の言葉が脳裏に蘇り「嫌々で面倒がつてお供えしても、相手に伝わることも喜んでもらえる事も無く、何より大切なのは真心であつて、気持ちよく相手の事を思つてしなくてはいけない」と自分の心の持ち方に気を付けるようになりました。

見た目や内容にこだわり過ぎなくても、愛情いっぱい真心があれば必ず伝わりますし、きっと喜んでくれることでしょう。お彼岸を迎えるにあたり、ご先祖さまと過ごす時間を大切にしたいものです。

寄稿

故郷の夏景色

田殿町岡 眞智子

色とりどりのお灯笼
歓喜の光明照らしつつ
地藏菩薩に導かれ
極楽浄土へ行き給う
尊い供養勤めなん

「施餓鬼精霊供養和讃」

徳島市の北東部を流れる吉野川で、毎年八月十六日の夕暮れ、色とりどりの精霊供養の灯笼が川面に灯りを映し、ゆらゆらと揺れながら流れていきます。川岸では静かに手を合わせる人々の姿と、先祖への思いを込めた読経の響き――

和讃の解説によりますと、昭和三十八年、お盆の灯笼流しの法会の御詠歌として作られました。私はこの詠歌をお唱えしながら、子どもの頃の、故郷のお盆の行事を懐かしく思い出します。

長崎県五島列島の近く、故郷のお盆は、ペーロン大会や盆踊りで活気に満ちていました。初盆を迎える家は、親戚より沢山の灯笼をお供えされます。仏壇の前には、美しい模様が描かれた提灯が並べられます。

山に建てられたお墓にも棚を作り、沢山の提灯を灯してご先祖さまをお供養します。夕暮れを迎えると、山一帯のお墓が灯りに照らされて、特別な光景が広がります。長崎では、お墓で花火を打ち上げ、爆竹を鳴らす地方もあります。私の中では静かに手を合わせ、久し振りに出合った方々との話に花が咲いていました。そうするうちに、遠くから盆踊りの太鼓の音が聞こえてきます……。

今では、お盆の里帰りも中々できていませんが、送り火のあと、残り火の中で故郷の盆踊りを踊っています。こ

お子様の撰名を致します。出来るかぎりご両親の希望に沿いながら、姓名学に則った良名を選ばせて頂いております。

の一瞬、吉野の山々が故郷の海に思えて……不思議ですね。

故郷に感謝します。

ご先祖様に感謝します。

ご詠歌との出会いに感謝します。

素晴らしき

「轉法輪寺お遍路隊」

橋本市 辻本公平

私は巡礼やお遍路について何の知識もありませんでした。ただ、巡礼という言葉が好きで、轉法輪寺様より今年三月の四国巡拝のお話を伺い、背中を押されるように申し込みました。

いざお遍路へといつても、分かっているのはお寺を回るということだけ。しかし、二度の打ち合わせ会で、一緒に先輩方からは参拝方法や遍路の便利グッズ等を教えてもらったり、導師から分からないことを丁寧に答えて頂いたりして、不安はすっかり無くなり

ました。

同行は全員で二十五名。副住職様を筆頭に三班に分かれ、班長は経験豊かな先輩が、それから線香係、ろうそく係、賽銭係、交通係、旗手係、看護係と組織立ったお遍路隊。私はびつくり、感心しました。轉法輪寺様の今までの経験から、本当に素晴らしい「轉法輪寺お遍路隊」が生まれたのでしょうか。初心者の私には大船に乗せて頂いている心地です。そして三月二十九日、いざ、初めてのお遍路へ！

私はこのお遍路隊のお陰で、巡拝途中に各札所の色々な話を聞かせて頂いたり、バスの中も和気あいあい、他の旅行では味わうことの出来ない、とても楽しく印象深い四国巡拝となりました。

二泊三日の行程もあっという間に最後のお寺、薬王寺に到着。出来るならこのまま続けて巡拝したい気持ちを残して帰途につきました。副住職様はじめ、今回お世話になりました皆さまに厚く御礼申し上げます。

秋の四国巡拝にお参りしませんか？

土佐～伊予参り (行程第2回目)

24番最御崎寺～49番浄土寺、
別格鯖大師・十夜ヶ橋

平成29年11月5日(日)～11月9日(木) (4泊5日)

〈参加費用〉 73,000円 (予価)

土佐路は遍路(辺路)の修行道。
太平洋を望む寺々に、お大師さまの足取りを感じてみませんか？
高知の名品「さわち料理」を堪能しつつ、日々の垢を落としに参りましょう。



輪 法 轉 (7)

先祖彼岸
大供養会

九月二十一日(木)

九時半より

法話 十時半より

本山布教師

四国番外札所十四番

椿堂 常福寺

田中鐘暁 僧正



《プロフィール》

自坊でお遍路さんと触れ合うかたわら、岡山県のハンセン病療養所での活動に従事。平成二十一年にガンで胃を全摘出する手術を受け、改めて命と向き合った。



先祖供養の申し込み
先祖供養の申し込み用紙を同封させて
いただきました。
当日も受け付け致しますが、遠方のかた
は二十日までに送って下さい。

丹生、狩場明神感謝祭

十月十六日(月)

午前十時より

浦安の舞 奉舞

丹生都比売神社 巫女様

おもちまき

お大師さまは、当山にて狩場明神と
出会われました。白黒の犬を貸し与え
られて入定の地、高野山へたどり着か
れたのです。実は狩場明神とその母神
である丹生都比売明神が、高野山の地
主でした。神が大師を導いた時、それ
は神と仏、異なった教えが和合した瞬
間でした。

我々も、姿かたちや考え方を比べる
前に、手を取り合う教えを大事にして
参りましょう。皆さまの参拝お待ちし
ております。

心ひかれる仏教の話

西山 厚先生 連続講座

第二回講座

12月10日(日) 午後1時より開催
轉法輪寺大教室二階にて

テーマ「観音菩薩に会う」

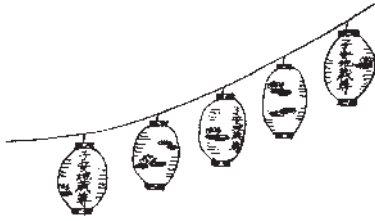


参加費1,000円(第一回講演の前に事前申込み頂いた
方は、受講証をお持ちください)
毎回大好評を頂いている西山先生の講演。
宗派・年齢問わず、たくさんの方に聴いて頂きたい
内容です。

毎月三回不定期で「タイコの会」を開いています。お経を唱えながら
タイコを叩いてみませんか？

地蔵尊大法会盛大

去る7月24日



朝早くからたくさんの方に
お参りいただき、
ありがとうございました
心より御礼申し上げます。



散華を散らし、道場を荘厳しながら
職衆の入堂です。



手送りでお供えした御聖燈が、子安
地蔵尊と水児を光で包みます。



名誉住職導師のもと、永代供養
水児のお供養を執行しました。



手話で歌った「ピリプ」。未来の
輝きを信じる言葉が心に響きました。

〈七五三まいり〉 11月中、七五三のご祈祷を行います。
お子様の健やかな成長を祈ってどうぞお参り下さい。